

○計画期間：平成 28 年 4 月～平成 33 年 3 月（5 年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成 28 年度終了時点（平成 29 年 3 月 31 日時点）の市街地の概況

本市は、前計画（平成 22 年 3 月～平成 27 年 3 月）において実施した、中心市街地活性化の取り組みの効果検証を踏まえ、平成 28 年 3 月に新たに基本計画を策定し、認定を受けた。「生活を支える機能・サービスの充実を図る」、「みんなが主役、みんなが活躍できるまちをつくる」という基本方針に基づくまちづくりを展開することで、『「人が集う街」の実現』を目標に定め、「便利で過ごしやすく人が集うまち」、「人々が活発に交流しふれあうまち」を目指して各種事業の推進を図っているところである。

本市の中心市街地は、地域の行政、経済、交通、文化、医療、福祉、飲食といった多様な都市機能が集積しており、地域に様々な利益を提供する役割を藩政時代から担ってきたエリアである。しかしながら、近年では市街地の構造の変化による郊外化や人口の減少、購買力の拡散及び消費の減少等により、中心市街地に集積していた商業機能が低下してきている。前計画の取り組みにより、都市施設の整備や市民団体等によるソフト事業の取り組み等で一定の成果は得られたが、引き続き、地域の課題解決に努め、都市機能の増進を図っていく必要がある。

特に前計画から最重要課題として取り組んでいる、大手前の賑わい創出については、市民参加による協議を重ね、基本計画を策定し、その実現に向け（仮）大手前まちづくり交流館整備及び周辺関連事業に取り組んでいる。また、平成 27 年度に開館した城下町観光交流館や歴史資料館は、新たなまちの魅力として、徐々に中心市街地に賑わいを創出しており、来街者等の交流人口の増加に寄与している。ソフト事業としては、平成 28 年度特徴的であった、西日本初開催になる「2016 西日本 B-1 グランプリ in 佐伯」では、西日本で活動している B-1 グランプリ加盟団体及び多くの市民ボランティアによるイベント企画・運営や商店街、経済団体等の連携で市内外の人々の交流が促進され、中心市街地内会場周辺地域の賑わい創出に寄与し、その後の市民活動にも影響を与えた。その他基本計画に位置付けた各種事業については、概ね計画どおり進捗している状況である。

2. 平成 28 年度の取り組み等に対する中心市街地活性化協議会の意見

佐伯市と当協議会の事務局による定例会議を開催し、佐伯市中心市街地活性化基本計画（以下、基本計画）掲載事業について検討、協議を行った。結果、中心市街地では基本計画に基づいた事業の取り組みの進展に伴い、徐々に中心市街地活性化が図られてきているものと認識している。

特に前基本計画で未完了であった大手前開発関連事業について、市民会議による検討により得た市民ニーズを分析し、真に必要な機能を整備していくこととしている。大手前において新たな賑わいを創出していくためには、中心市街地活性化を具体化する拠点としてのハード整備だけでなく、有効なソフト事業等についても構築していく必要がある。

最後に、前基本計画によって得られた反省点を踏まえ、佐伯市と当協議会が連携、協働しながら基本計画を推進し、更なる活性化に向けて取り組むことで、九州一広い市域を持つ佐伯市の中心市街地だけにとどまらず、市全域へ事業効果が波及することを期待する。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
便利で過ごしやすく人が集うまち	歩行者通行量	2,391 人/日 (H26)	2,682 人/日 (H32)	2,593 人/日 (H28)	—	①
	商店街空き店舗率(参考指標)	34.5% (H26)	27.6% (H32)	36.2% (H28)	—	①
人々が活発に交流しふれあうまち	まちづくり交流人口	294,246 人/年 (H26)	333,997 人/年 (H32)	300,842 人/年 (H28)	—	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

○歩行者通行量

歩行者通行量は、基準年である平成 26 年度から毎年増加傾向である。特に直近の平成 28 年度には、1 日当たり 2,593 人と約 8.4% (202 人) の増加となっている。調査地点のうち 4 地点では休日の歩行者通行量が増加傾向である。また、山際通りの調査地点では、休日に減少が見られるものの、平日の通行量が大幅に増加している。これは、前計画時に整備した城下町観光交流館の利用者の増加や市民ボランティアによる観光ガイド等のソフト事業の成果によるものと考えられる。引き続き、基本計画を推進し、目標達成に向け取り組む。

○商店街空き店舗率(参考指標)

平成 26 年度の営業店舗 38 店舗から平成 28 年度は 37 店舗であった。空き店舗率 1.4% の増加であるが、5 店舗の閉店に対し 4 店舗の新規出店で、小売業だけでなく塾や事務所といった多業種の出店で、商店街に新たな利用者が現れている。チャレンジショップ事業及び空き家・空き店舗活用実証実験事業等により、新規出店やイベントの開催スペース等として空き店舗の活用も進められている。今後も商店街への出店を促進し、空き店舗解消に努める。

○まちづくり交流人口

平成 26 年度の中心市街地内主要交流施設の年間利用者数から平成 28 年度の利用者数は約 2.2% (6,596 人) 増加している。特に前計画で整備した駅前・港地域交流センターは基準値に比べ最新値は約 1.5 倍の利用者数となっている。各ソフト事業による効果で市民活動等が活発に行われていることがその要因ではあると考えられる。引き続き、基本計画を推進し、目標達成に向け取り組む。

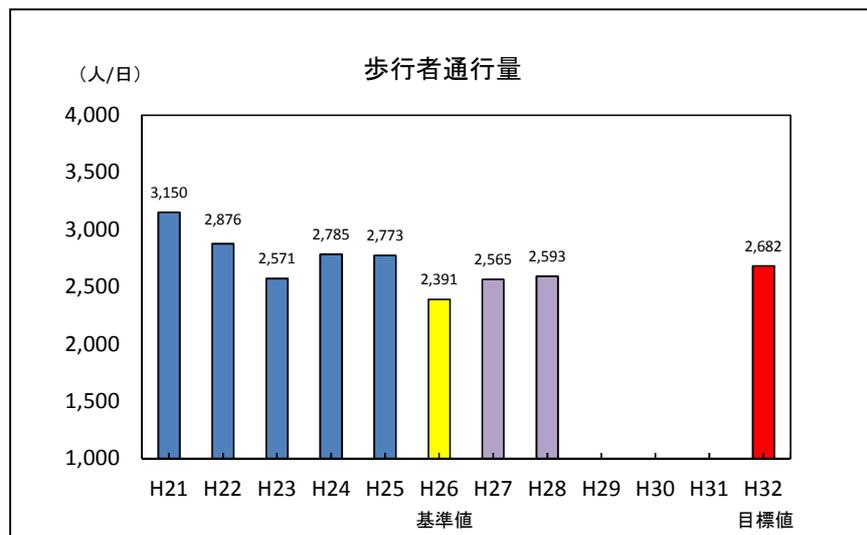
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった理由

計画策定初年度であり、前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P73～P77 参照

1. 調査結果の推移



年	歩行者通行量 (年/人)
H26	2,391 (基準年値)
H27	2,565
H28	2,593
H29	
H30	
H31	
H32	2,682 (目標値)

※調査方法：歩行者通行量調査（毎年 11 月実施）

※調査月：毎年 11 月

※調査主体：佐伯市

※調査対象：歩行者及び自転車通行者、中心市街地 5 ポイント、平日・休日の合計平均

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高次都市施設整備事業（（仮）大手前まちづくり交流館）（佐伯市）

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	ホールを有する地域交流センターと地域ブランドの発信拠点としてまちおこしセンター、子育て世代活動支援センターの複合施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	交流拠点及び子育て交流施設等を整備することでまちの魅力を高める。目標設定時に見込んだ事業効果は、歩行者通行量の増加 220 人/日である。事業用地の確保、建設用地内の地質調査、建物事前調査等を実施した。また、建物の基本設計を完了し実施設計を実施中である。

②. 保育所建設事業（佐伯市）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	郊外に立地する久部保育所を中心市街地内に移設する。
事業効果及び進捗状況	中心市街地内に移転及び規模拡大することで生活の利便性を向上させる。目標設定時に見込んだ事業効果は、歩行者通行量の増加 12 人/日である。事業用地内の地質調査、埋蔵物調査を実施した。また、平成 29 年度の建設に向け、実施設計を終えた。

③. 城下町観光交流館運営事業（佐伯市）

事業完了時期	－【実施中】
事業概要	市民及び観光客の相互交流を促進するビジターセンターを運営する。
事業効果及び進捗状況	観光地としての魅力付けと周辺地域の賑わいを創出する。目標設定時に見込んだ事業効果は、歩行者通行量の増加 70 人/日である。開館後、徐々に利用者も増加し、情報発信・観光に関する拠点となって来街者はもとより市民も集い、地域の賑わいが創出されている。観光客へのおもてなし力の向上にも寄与している。

④. 地域包括ケアセンター「さいきの太陽」運営事業（医療法人「小寺会」佐伯中央病院）

事業完了時期	－【実施中】
事業概要	地域包括ケアセンターとして、グループホーム、サービス付高齢者向け住宅、在宅介護センター等を運営する。
事業効果及び進捗状況	住まい・医療・介護等が一体的に提供されるケアセンターの運営により、便利で過ごしやすいまちの実現に寄与する。目標設定時に見込んだ事業効果は、歩行者通行量の増加 12 人/日である。 受入れの定員まで入居している。まちなか居住人口の増加にも寄与しており、地域の賑わいが創出されている。

⑤. 魚市場リノベーション事業（佐伯市）

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	公設魚市場を耐震補強し、魚市場機能に加え観光交流拠点としてリノベーションする。
事業効果及び進捗状況	従来の機能だけでなく飲食店等の観光交流拠点整備を行うことで、周辺既存店舗と連携し、回遊性の向上、地域の賑わいの創出に寄与する。目標設定時に見込んだ事業効果は、歩行者通行量の増加 7 人/日である。 建物の実施設計を終え、賑わいのスペースに出店する事業者を公募している。

⑥. 空き家・空き店舗活用実証実験事業（佐伯市）

事業完了時期	平成 28 年度【実施済】
事業概要	空き家・空き店舗の解消によるまちの魅力づけのための取り組みを行う。
事業効果及び進捗状況	空き家・空き店舗を活用し周辺地域の賑わいの創出、担い手の育成を図る。目標設定時に見込んだ事業効果は、歩行者通行量の増加 21 人/日である。 3 物件を借用し、展示会やイベント等で開放した。物件や企画に興味を持つ市民も出てきたことから、今後も引き続き空き家等の利活用に努める。

⑦. 中心市街地空き店舗活用事業（佐伯市・まちづくり佐伯）

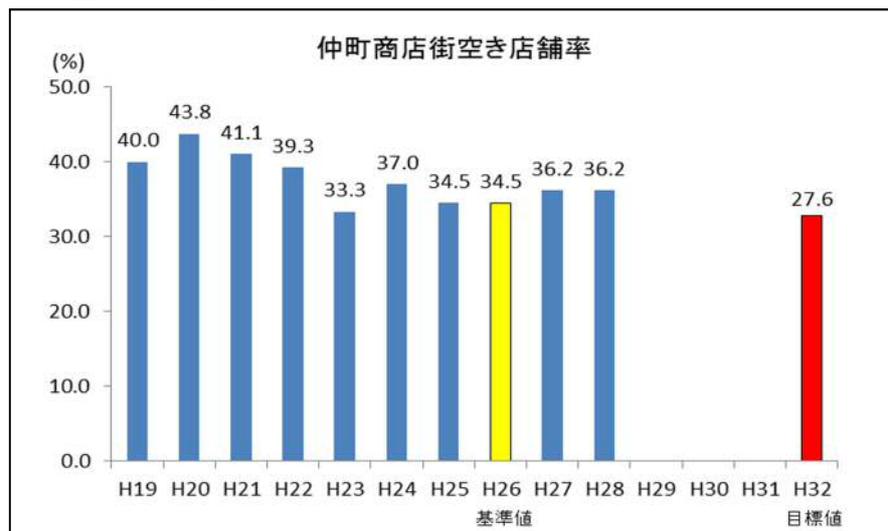
事業完了時期	平成 32 年度【実施中】
事業概要	中心市街地内における空き店舗の解消の取り組みを行う。
事業効果及び進捗状況	都市機能の集積による生活の利便性を向上させまちの魅力を高める。目標設定時に見込んだ事業効果は、歩行者通行量の増加 36 人/日である。今年度は3店舗の開業につながった。今後も引き続き空き店舗の解消に努める。

●目標達成の見通し及び今後の対策

基準年次である平成 26 年度と比較して順調に増加している。また、主要事業は概ね順調に進捗しており、目標の達成が可能であると思われる。今後引き続き、更なる住民合意形成を図りながら事業推進に努めていく。また、観光客や市民の交流人口増加を目指して、中心市街地の魅力を高めつつ、来街機会の創出、回遊性の向上を図っていく。

「空き店舗率（参考指標）」※目標設定の考え方基本計画 P78～P79 参照

1. 調査結果の推移



年	空き店舗率 (%)
H26	34.5 (基準年値)
H27	36.2
H28	36.2
H29	
H30	
H31	
H32	27.6 (目標値)

※調査方法：仲町振興組合聞き取り調査調査（毎年3月実施）

※調査月：毎年3月

※調査主体：佐伯市

※調査対象：「仲町商店街」の店舗数、空き店舗・空き地から測定

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地空き店舗活用事業（佐伯市・まちづくり佐伯）

事業完了時期	平成32年度【実施中】
事業概要	中心市街地内における空き店舗の解消の取り組みを行う。
事業効果及び進捗状況	都市機能の集積による生活の利便性を向上させまちの魅力を高める。目標設定時に見込んだ事業効果は、計画期間中の増加3店舗である。今年度は3店舗の開業につながった。今後も引き続き空き店舗の解消に努める。

②. チャレンジショップ事業（佐伯市・民間事業者）

事業完了時期	平成32年度【実施中】
事業概要	仲町商店街内の空き店舗を貸し出して、チャレンジショップを運営する。
事業効果及び進捗状況	商店街内不足業種の充足や個性的な店舗の出店で商店街に魅力付けを行う。目標設定時に見込んだ事業効果は、計画期間内の増加1店舗である。年度中に1店舗閉店したが、年度末に2店舗の出店ができた。引き続き、新規出店の誘発につながるよう支援していく。

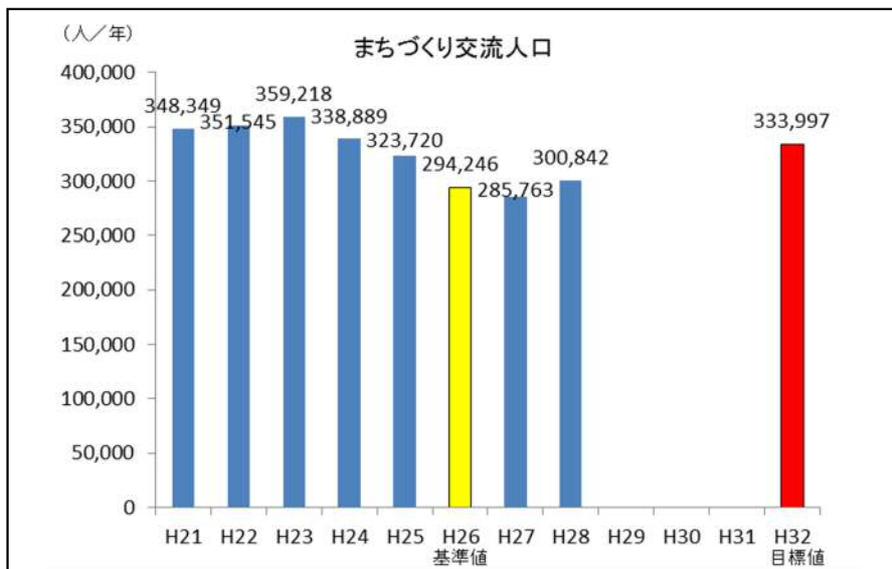
●目標達成の見通し及び今後の対策

仲町商店街の空き店舗率は、参考指標として掲げているものであり、街なかの利便性向上の観点から設定しているものである。多業種が商店街内に混在することで、新たな場所として生活利便性の向上が図られる。今後も商店街内の新規出店を促しながら、目標達成に向け努力する。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「まちづくり交流人口」※目標設定の考え方基本計画 P80～P84 参照

1. 調査結果の推移



年	まちづくり交流人口 (人/年)
H26	294,246 (基準年値)
H27	285,763
H28	300,842
H29	
H30	
H31	
H32	333,997 (目標値)

※調査方法：各施設利用者実績調査（毎年4-3月）

※調査月：毎年4月

※調査主体：佐伯市

※調査対象：年度施設別利用者実績の合計による測定

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高次都市施設整備事業（（仮）大手前まちづくり交流館）（佐伯市）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	ホールを有する地域交流センターと地域ブランドの発信拠点としてまちおこしセンター、子育て世代活動支援センターの複合施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	交流拠点及び子育て交流施設等を整備することでまちの魅力を高める。目標設定時に見込んだ事業効果は、まちづくり交流人口の増加31,200人/年である。事業用地の確保、建設用地内の地質調査、建物事前調査等を実施した。また、建物の基本設計を完了し実施設計を実施中である。

②. まちづくりセンター運営事業（佐伯市）

事業完了時期	平成32年度【実施中】
事業概要	仲町商店街内に市民活動団体等の活動拠点としてまちづくりセンターを設置する。
事業効果及び進捗状況	商店街内に商業だけでなく市民が交流する場を設け、市民活動や担い手育成を支援する。目標設定時に見込んだ事業効果は、まちづくり交流人口の増加5,760人/年である。 イベントや市民活動団体間の交流、新規団体の活動を支援した。

③. 巣立つ君たちへ「自炊塾」(佐伯市)

事業完了時期	平成 32 年度【実施中】
事業概要	就職や進学で親元を離れる高校生を対象に座学と調理実習を行う。
事業効果及び進捗状況	<p>事業を通じて、人材の育成を行い、まちの愛着を高めるとともに担い手による賑わい創出が期待される。目標設定時に見込んだ事業効果は、まちづくり交流人口の増加 90 人/年である。</p> <p>高校 3 年生を対象に和楽で実施したが、さらに参加者の増加を目指し、授業を利用しての事業実施等を検討している。</p>

④. さいき立志塾 (佐伯市)

事業完了時期	平成 32 年度【実施中】
事業概要	専門講師による経営講話やディスカッション、参加者の交流等を通じて次世代の佐伯経済を担う人材の育成を行う。
事業効果及び進捗状況	<p>異業種や地域を超えた交流等により塾生の見識を深めることに寄与する。目標設定時に見込んだ事業効果は、まちづくり交流人口の増加 480 人/年である。</p> <p>年 12 回の講座を実施し、市内企業の現地研修も実施した。塾生間での事業連携等も取り組みが始まっている。</p>

⑤. 「佐伯人創造塾」～人材育成事業～ (佐伯市)

事業完了時期	平成 32 年度【実施中】
事業概要	地域を牽引するリーダー的な人材の育成に向け、座学や懇話を行う。
事業効果及び進捗状況	<p>地域資源の保全や活用、情報発信をする人材を育成していく。目標設定時に見込んだ事業効果は、まちづくり交流人口の増加 240 人/年である。</p> <p>地域課題や先進事例について講師を招き、年 10 回の講座として実施した。引き続き、多くの市民の参加を促しながら、事業を実施する。</p>

⑥. 城下町観光交流館運営事業 (佐伯市)

事業完了時期	- 【実施中】
事業概要	市民及び観光客の相互交流を促進するビジターセンターを運営する。
事業効果及び進捗状況	<p>観光地としての魅力付けと周辺地域の賑わいを創出する。目標設定時に見込んだ事業効果は、まちづくり交流人口の増加 2,398 人/年である。開館後、徐々に利用者も増加し、情報発信・観光に関する拠点となって来街者はもとより市民も集い、地域の賑わいが創出されている。観光客へのおもてなし力の向上にも寄与している。</p>

⑦. 食育推進事業（佐伯市）

事業完了時期	- 【実施中】
事業概要	「食のまちづくり条例」に基づき食育理念の普及や食の情報発信、啓発活動を実施する。
事業効果及び進捗状況	食育活動を通じて、まちに対する愛着を醸成し、地産地消を促進する。また、その知識を対外的に情報発信できる人材育成につながる。目標設定時に見込んだ事業効果は、まちづくり交流人口の増加 880 人/年である。 食に関する市民啓発のため、食育の分野で著名な講師を招き食育講演会を実施した。また、食に関する市民活動団体の活動も活発になってきており、イベントや各種活動支援を実施した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

基準年次である平成 26 年度と比較して順調に増加している。また、主要事業は概ね順調に進捗しており、目標の達成が可能であると思われる。施設利用者の最新値は、現在 5 施設の実績となっている。施設の運営状況により、左右される要素はあるが、まちづくり交流人口の更なる増進に向け、今後開設される施設も含め、それぞれが連携して、中心市街地の来街者増加を目指し、計画の推進及び効果的な事業を実施する。